

第 21 回環境情報科学センター賞 受賞者

特別賞

受賞者：江戸川区

対象業績：東京都江戸川区における水とみどりのまちづくり活動－50年の歩み

【受賞理由】

昭和 45（1970）年に「ゆたかな心地にみどり」を合言葉にスタートした江戸川区の緑化運動から 50 年、その間に実施された、「親水公園，親水緑道」の整備が最も目を見張るものがあり，日本で最初の親水公園である，古川親水公園が整備されたあと，継続して路線毎の特徴を活かし，全体計画 23 路線の流水方式を自然流下，循環，一部循環として，全総延長約 27km を整備して「水と緑のネットワーク」を形成されている。

平成 14（2002）年に「江戸川区水と緑の行動指針」を作成し，都市緑地法に基づく「緑の基本計画」を平成 25（2013）年に改定している。その中で基本方針①みどりを守る 24 の施策（樹林地・農地の保全活用等），②みどりを育む 20 の施策（ボランティア活動の推進等）③みどりを創る 26 の施策（身近な公園の充実・学校の緑の充実等）の多くの施策を提示して実践している。

さらに「市民活動の醸成として①町会・自治会組織を中心とした活動と②ボランティア活動，アダプト制度の取り組みを実施して，昭和 49（1974）年から古川親水公園の完成後，「古川を愛する会」が結成され他の親水公園等にも同様の「愛する会」が発足活動している。②の取り組みとして，区民主体の環境づくりを平成 14（2002）年より積極的に推進しており，平成 17（2005）年からは，「ボランティア立区えどがわ」の実現を図っている。このように区民とともに，約半世紀，水とみどりの弛まない事業と活動は江戸川区の集大成として評価でき，他の自治体に多くの示唆を与えるものであり，環境情報科学に関する学問及び技術の進歩・発展に広く貢献していて，環境情報科学センター賞の特別賞に値すると高く評価する。